

第51回 俳句大会 中学生俳句大会 顕彰規子



第51回子規顕彰小中高校生俳句大会で7,282句の応募の中から選ばれた、グランプリ4句と特選130句を紹介します。

※で囲った句は複数の選者が特選に選んだ句。()内は学校名・学年(敬称略)

高等学校の部



西成 隆都 (松山工業高1年)

炎天を 吹き飛ばすべく チューバ吹く

グランプリ

私は吹奏楽部で活動しており、時々野球応援に行くことがあります。特に夏は回数が多く、その度に炎天下で演奏するので、この暑さをどうにかしたいという思いをこの俳句に込めました。
受賞の知らせを聞いたときは、大変驚きました。今でも、夢ではないかと疑うほどです。グランプリに選んで頂き、本当にありがとうございます。

中学校の部



西尾 颯隼 (松山西中等教育1年)

祖母の笑み 四半世紀の 華浴衣

グランプリ

祖母が大事にとっておいた浴衣を、仕立て直して妹に着せている時の、祖母と妹のうれしそうな様子を句にしてみました。四半世紀ぶりに光を浴びる浴衣に込められた、たぐさんの思い出を、祖母の笑みから感じました。そして、世代を超えて受け継がれる和服の良さも感じました。このたび、思いもかけず素晴らしい賞を頂き、驚きと喜びでいっぱいです。

小学校下学年の部(1~3年生)



高田 裕太 (新玉小3年)

風鈴や 父と二人で 囲碁勝負

グランプリ

父と囲碁に熱中している時、風鈴の涼しい音がした瞬間をよみました。受賞できてうれしかったです。囲碁の先生や碁石と碁盤をくれた親戚のおじさんにも報告したいです。俳句はまほうのカメラみたいだと思えます。風景だけだから、音や気持も残せるからです。これからもいろいろな瞬間を俳句にしたいと思えます。

小学校上学年の部(4~6年生)



島崎 陸 (雄郡小4年)

暑さよけ ろうかにはどりと おちるねこ

グランプリ

ぼくの家には、茶色と白のぼつちやりのたぬこがいます。名前が「にゃんた」です。いつもフローリングの床やクッションの上、台所のフライパンの横など色々な所に丸まっています。夏には、ひんやりしたろうかにおおむけでごろんと転がっています。その姿が、まるで、ぼりと落ちていくように見えたので俳句にしてみました。

渡邊 孤鷲 選	暮末の火揚げける赤蜻蛉 山根 未久(松山東高3)	走り込めかげろうの立つゴール前 松本 大和(松山工業高1)	炎天を吹き飛ばすべくチューバ吹く 西成 隆都(松山工業高1)	かき上げた髪からひとつ春の星 三好 佑佳(愛大附属高2)	短夜のいつか火星に住む話 小嶋 佑哉(愛大附属高2)
福谷 俊子 選	人混みに酔って人待つ夏祭り 片本有琴(1)(松山南高部分校1)	飛行機が入道雲をひとかじり 清本 慶乃(松山工業高1)	かき上げた髪からひとつ春の星 三好 佑佳(愛大附属高2)	短夜のいつか火星に住む話 小嶋 佑哉(愛大附属高2)	祖母の笑み四半世紀の華浴衣 西尾 颯隼(松山西中等教育1)
高岡 周子 選	背伸びして選んだ抹茶の水菓子 副島ひなた(松山工業高2)	殿の子猫連れて穴を抜け 藤野日回(1)(愛光高1)	かき上げた髪からひとつ春の星 三好 佑佳(愛大附属高2)	短夜のいつか火星に住む話 小嶋 佑哉(愛大附属高2)	祖母の笑み四半世紀の華浴衣 西尾 颯隼(松山西中等教育1)
江崎 紀和子 選	背負い投げ回る相撲に汗が飛ぶ 藤田 大鶴(松山工業高1)	フルセット終わりを告げる鐘の音 青森 将剛(松山工業高3)	かき上げた髪からひとつ春の星 三好 佑佳(愛大附属高2)	短夜のいつか火星に住む話 小嶋 佑哉(愛大附属高2)	祖母の笑み四半世紀の華浴衣 西尾 颯隼(松山西中等教育1)
木下 節子 選	炎天を吹き飛ばすべくチューバ吹く 西成 隆都(松山工業高1)	走り込めかげろうの立つゴール前 松本 大和(松山工業高1)	かき上げた髪からひとつ春の星 三好 佑佳(愛大附属高2)	短夜のいつか火星に住む話 小嶋 佑哉(愛大附属高2)	祖母の笑み四半世紀の華浴衣 西尾 颯隼(松山西中等教育1)

松原 由起 選	祖母の笑み四半世紀の華浴衣 西尾 颯隼(松山西中等教育1)	父の背で眠る子どものげたコロリ 越智 梨帆(椿中1)	竹刀置き悔しさかたつ白雲陽花 高谷 岳(日生中3)	埋めざれぬ用紙の隅に終戦日 武田 歩(道後中3)	お帰りの思いをのせた御霊供膳 沖野 心美(北中2)
細川 美保 選	飲声を連れて落ちる滝滑り 大島 隼(旭中2)	向日葵も一人背を向け反叛期 嶋屋 桃花(鴨川中2)	墨染る半紙の赤白笑う 鍛冶崎 悠(済美平成中等教育1)	しよつぷ湯に鼻つまみつかる顔(1) 二宮 詩乃(日生中3)	暑いでしょ祖母の曇右に手酌水 北代 涼真(南中2)
尾後 千恵 選	笛が譲れぬ場所を顔を出し 大西 龍嗣(久米中3)	春秋や畑を駆ける風を見ゆ 宮崎 真矢(南第二中3)	炎倉の島にうきり白灯台 酒井 保臣(新田青雲中等教育1)	朝顔も自誇めたびり散歩道 壺内 悠希(新田青雲中等教育2)	草花の呼吸聞こえる初夏の山 東エンジェル(新田青雲中等教育2)
武田 香織 選	祖父の背をゆつくり追いかけて盆踊り 十河凛太郎(済美平成中等教育2)	暑中見舞い御節にだけは手書きする 今井 愛貴(松山西中等教育1)	亡き祖母のパソコン開く盆休み 藤田 ねね(雄新中3)	長月の昇降口の匂いかな 高橋凛太郎(道後中3)	祖母の笑み四半世紀の華浴衣 西尾 颯隼(松山西中等教育1)
角田 鉄平 選	我が町を広く見守る花火かな 南 冠太(勝山中1)	からつぽのベイトボトルと夏の海 吉中 亮成(松山西中等教育2)	自己紹介言葉につまる花籠 池田 彩那(久米中1)	風薫る愛犬の死を看取りけり 村井 雅楽(雄新中3)	また一人増えたはこら西瓜食う 宇都宮海歌(雄新中3)

中尾 順子 選	あやとりゆびのさきからみかんの におい 玉井ましろ(日生小2)	入道雲せおう大師が空に立つ 畑中 嘉規(道後小3)	風鈴や父と二人で囲碁勝負 高田 裕太(新玉小3)	かきあげて一人ずばん秋の風 福柳 もも(石井北小3)	ホームランいっしょに飛んでけー夏 つばめ 松村健太郎(荏原小3)
池田 尊之 選	手ぶくろをわすれたあざはグーの に 渡部 花菜(垣生小2)	七夕に太マシツフでぬいご 福井 秀久(愛大附属小2)	おみやげはまっ黒ぐん手とさつまい も 北代 唯夢(垣生小3)	妹と母がおんなじ顔 林 煌太(たばな小3)	いもつとはブルに聞こえはだか んぽ 石川 慧志(たばな小2)
高須賀 智子 選	あじさいがおしくらまんじゅうさ いでいく 對馬 早希(伊台小2)	あぢさいがおしくらまんじゅうさ いでいく 對馬 早希(伊台小2)	あぢさいがおしくらまんじゅうさ いでいく 對馬 早希(伊台小2)	あぢさいがおしくらまんじゅうさ いでいく 對馬 早希(伊台小2)	あぢさいがおしくらまんじゅうさ いでいく 對馬 早希(伊台小2)
吉岡 亜紀子 選	せんせいのいるいっばいなつづく も 宇都宮ひより(清水小1)	どろだんごびかびかにするなつやす み 野町 健介(味噌小1)	うしろからおぼけでたまなつにつ き 井上 咲季(興居島小1)	つゆのそききょうもよろしくぼくの かさ 森 海琉(垣生小1)	パリカンの音がびくびく春の風 吉岡 大和(垣生小3)
吉見 香奈子 選	入道雲いっしょをだいでいる 田中 美月(たばな小3)	長すぎるゆかた祖母の手まほうの手 越智 葵(久枝小3)	うちつきでいい子いい子とまるめた よ 重藤 尊瑠(垣生小2)	うきぶぐるくらんだまたまた明日 田所 怜也(味噌小3)	うきぶぐるくらんだまたまた明日 田所 怜也(味噌小3)

矢野 裕司 選	また来年朝顔の前かみする 井上 颯真(荏原小4)	夕焼けや少年走る土の上 堀川奈々(新玉小6)	もてこのかけ声はこぶ秋の風 大隅 俊哉(雄郡小4)	母の手紙湯豆腐くらの温かさ 井上 夏音(垣生小5)	順番を待つて待つてのかき氷 永井 麗子(湯山小6)
大久保 礼子 選	かき消すな母との会話せみしぐれ 松友 杏奈(たばな小4)	けんかして何も言わないラムネ二本 福原 奏(久枝小4)	負け試合消えてなくなれ水水 藤村 知輝(道後小5)	ものほしのあせた水精風を切る 上原 志道(高浜小4)	母とした夏の約束やがれない 安平 幸虫(荏原小5)
茨木 里子 選	サイダーをぐびぐび一人じめ 堀池 祐希(蓮田小5)	夏空もむぎも笑ったつら山 今岡孝太郎(粟井小5)	父に見る将来の夢と夕立 布袋 俊幸(和気小5)	水しぎほごがつつた星の星 山本 洸太(堀江小4)	初夏負けなみだをかくす梅雨雲 徳本 雄太(雄郡小5)
向井 京子 選	かつ舌をきそつてたのしつくつくほ うし 三好 悠斗(味生第二小5)	暑さよけろうかにはどりとおちるね こ 島崎 陸(雄郡小4)	ひまそう公園のベンチ日焼けする 加藤 大悟(福音小6)	大差ない金魚の前で品定め 石橋 審平(石井小6)	部屋すみ寝そうが悪い夏とん 居林 真理(双葉小4)
矢野 三佳里 選	弟とこそ話カーネーション 篠崎 陸(石井北小5)	片かけに犬腹つけるじやりの庭 橋村 蓮香(中島小6)	しかられて真夜中に父とアイス食べ 鈴木 悠太(くら小6)	屋下がり一人遊びのホウセンカ 東山ひかる(湖見小4)	息白しニホンザルよく手をたたく 山本 陽奈(難波小6)



表彰式の様子